

載いたしました。また、「四季の風」(季節の新作俳句)(十一面)を四回(四、七、十、一月)掲載いたしました。

なお、これらの全ての記事を「肥後医育振興会」のホームページに転載しており、ごなたでも自由に読めるようになっています。「慈愛の心・医心伝心」などは読者からの読後感想が毎回のよう熊本日新聞社に寄せられているので、皆様、ぜひホームページもご覧下さいませ。

以下に「元気の処方箋」のテーマを記載します。

- 四月 子どもの睡眠障害 体内時計を狂わせない 生活習慣で、予防・改善を
- 五月 きちんと知って、対処したい 自律神経失調症
- 六月 暑さのせいだけじゃない！熱中症の「なぜ？」「どうする？」に答える
- 七月 メタボリックシンドロームの一疾患!? 尿路結石を知って、予防を！
- 八月 痛い「巻き爪」「陥入爪(かんにゅうそう)」「予防・治療で快適に
- 九月 加齢や外傷、高血圧や糖尿病などの全身疾患も原因に 網膜剥離
- 十月 健康法としての歩くと走るの基

- 十一月 依存症とはなにか 正しく知って治療と支援を
- 十二月 むくみは普通に起きること？ それとも病気のサイン 知っておきたい子どもの救急
- 一月 予防と冷静な対応を
- 二月 いつ起きる？ 何度も起きる？ あなたの「めまい」の正体は？
- 三月 二十代から知っておきたい高齢妊娠・出産の問題点

「第七回熊本県医療人育成総合会議」の開催

副理事長 山本 哲郎

「熊本県医療人育成総合会議」の趣旨は、日本の医療需要がピークを迎えるとともに六十五歳以上の高齢者が総人口の三分の一を占めるようになる二〇三〇年に向けて、熊本における医療の能力をいかにして高めていくかを、医療界・医学界をあげて知恵を出し合っていくというものです。

平成二十八年度は、度重なる大地震に見舞われて、災害医学、災害医療の重要性を再認識させられる年でありました。大災害においては、外傷患者の爆発的な発生に注目が集まりがちですが、今回の熊本地震で痛感させられたことは、共同体と地域医療の崩壊とがそれに追い打ちをかけてくるということです。外部からの災害医療援助隊の支援を受けながら、

長引く避難所生活や車中泊を余儀なくされている被災者に対する、持病治療の維持、公衆衛生の保証、あるいはメンタルヘルスケアなどをどう進めていくのかが現場において大きな課題となっていたことが明らかになってきました。このような災害における多彩な医療ニーズの発生を的確に把握しこれからの医療人育成につなげていくことを目的として、今年度は熊本地震を通して見えてきた大災害における医療と医育をテーマとしました。

実行委員・興相博次(実行委員長)、入江徹美、上田信之、宇佐美しおり、遠藤文夫、木原信市、児玉公道、迫田芳生、辻野智二、齋田和孝、古川 昇、松下修三、山本哲郎、赤坂威史、井 清司、奥本克己、甲斐 豊、笠岡俊志、川口辰哉、木脇弘二、坂本不出夫、永田壮一、松井邦彦

中村麗子

事務局：永田正次、鶴山敏哉、小竹敏生、

テーマ：「熊本地震―大災害における医療と医育―」

日時：平成二十八年十二月十日(土) 午後一時三十分～五時三十分

場所：熊本大学医学部キャンパス 医学総合研究棟三階講習室

司会：熊本大学大学院生命科学研究所 教授 興相博次氏

熊本県八代保健所長 木脇弘二氏

講演一 「熊本地震における災害対応本部の実際と課題 ―医療調整本部コーディネーターとして―」

熊本県赤十字血液センター所長 井 清司氏

講演二 「熊本地震支援・DMAT統括本部長として」

社会医療法人緑泉会 米盛病院 富岡讓二氏

講演三 「阿蘇地区の災害とADRO(阿蘇災害保健医療復興会議)の活動」

阿蘇医療センター 病院事業管理者(院長) 甲斐 豊氏

熊本県阿蘇保健所長 服部希世子氏

講演四 「益城地区の災害医療現場と医療支援」

熊本県上益城郡医師会長 永田壮一氏

講演五 「災害時感染防止対策の組織的取組と実際」

熊本大学医学部附属病院地域医療支援センター長 松井邦彦氏

講演六 「被災した医療施設の対応と医療スタッフの役割」

熊本市民病院救急診療部長 赤坂威史氏

参加人数 約二〇〇名

その後十二月二十八日に熊本日新聞